未来を担う高校生人材育成事業
学生レポート集

令和７年度富士宮市未来を担う高校生人材育成事業　研修レポート

過去から未来へつながる絆

学年：２年　氏名：赤池　若奈

今回の台湾研修では、台湾の文化、日本との友好関係、そして歴史や技術について多くのことを学ぶことができました。実際に現地に赴き、人々の生活や街の様子を見ることで、日本との違いや共通点を肌で感じられたことは、大変貴重な経験でありました。

まず文化について、台湾では車が右側通行で、街中には二人乗りのバイクが溢れているなど、日本とのルールの違いに驚きました。また、店員さんが電話をしながらレジ対応をする場面を見かけ、日本のようなマナーに縛られすぎず、自由に過ごしている大らかな雰囲気もいいなと感じました。

　現地の学校交流では、将来の夢について話しました。言葉の壁はありましたが、ジェスチャーや翻訳機を使いながら必死に伝え合う中で、国が違っても心を通わせ、親しみを感じられるのだと強く実感しました。

歴史について特に印象に残っているのは、日本人技師・八田與一さんです。八田さんは約 11 年という歳月をかけ、台湾の農業発展の礎となるダムを建設されました。「現地の人々を幸せにしたい」という強い信念に深い感銘を受けるとともに、慰霊碑に国籍の区別なく犠牲者の名前が刻まれていることを知り、命が平等に大切にされていることにとても感動しました。こうした多様な歴史的背景を知ることで、現在の豊かな台湾文化への理解が深まりました。

技術面では、世界中の電子機器を支える TSMC を見学し、台湾が世界の産業にいかに貢献しているかを学びました。VR 体験やカメラ画質の進化の展示を通し、私たちが普段使うスマホも多くの人々の研究開発という「恩恵」の上にあるのだと実感しました。八田さんが築いた農業の土台が今の発展につながり、さらに今の最先端技術が世界を支えている。歴史はバラバラではなく、過去から未来まで一つの線でつながっているのだと、現地に行って気づくことができました。

最後に、日本と台湾の深い友好関係についても学びました。台南市政府を訪問した際、災害などの困った時にお互いに助け合う素晴らしい関係があることを知りました。

八田與一さんの時代から続く日本と台湾のつながりを、現地の人たちが今も大切に思ってくれているからこそ、東日本大震災の時に台湾からたくさんの支援をいただけたのだと感じました。その後の台南大地震では日本からも恩返しとして支援が送られたと聞き、昔からの感謝の気持ちが今の助け合いにずっと引き継がれていることに、とても温かい気持ちになりました。また、私たちの住む富士宮市も来年で交流 10 周年を迎えます。庁舎内の写真の中に須藤市長を見つけた時は、自分の住んでいる街もこの温かい絆の輪の中にしっかり入っているんだなと感じて、すごく嬉しくなりました。

今回の研修を通して、台湾をより身近な存在として感じられるようになりました。これからも日本と台湾の関係に関心を持ち続け、今回学んだことを多くの人に伝えていきたいと思います。

令和７年度富士宮市未来を担う高校生人材育成事業　研修レポート

心のシャッターを開けて

学年：１年　氏名：井出　梨心

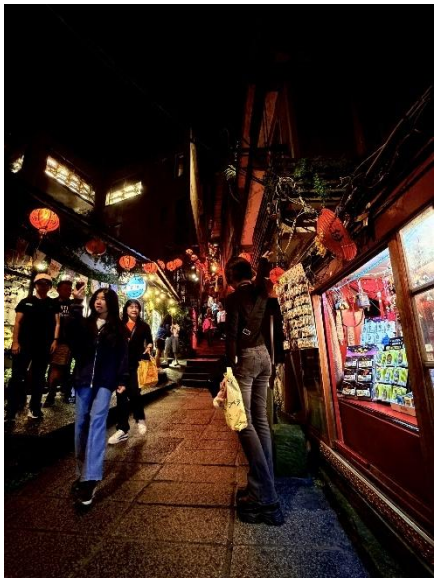
台湾で過ごした 5 日間、私の心に深く刻まれたのは「話すことこそ最高のおもてなしである」ということだ。

出発前、私の心は言語への不安という重いシャッターによって閉ざされていた。学校で学ぶ英語は実践の場が少なく、つけ焼き刃の中国語が通用するのかという疑念が私を消極的にさせていた。

初日、タピオカミルクティーの注文さえ翻訳アプリに頼り切り、胸を撫でおろすばかりで、対話を楽しむ余裕など私には少しもなかった。

転機は２日目、台南市政府へ表敬訪問に行ったときだった。富士宮市と台南市の友好関係や現地の農産物について学ぶ中、現地の方から「この研修を心から楽しんで」と温かなエールを送られた際、私ははっとさせられた。不安に囚われるあまり、今という瞬間を享受できていないのではないかと。その言葉に背中を押され、私は言語への恐怖を一度捨て、「楽しむこと」に意識をシフトした。すると、見える景色が劇的に変わった。八田與一氏の資料館で現地の方に話しかけられても動じず、知っている単語を繋いで口に出してみれば、意思が通じ、会話になった。この事実に胸が熱くなるような感動と身体の強張りが解けていくのを感じた。また、奇美博物館では、視覚情報から受け取る国境なき美に触れ、芸術の持つ普遍的な力を改めて認識した。

３日目の学校訪問では、言葉を超えた交流ができた。ダンスやレクリエーションを通じて自ら歩み寄れば、別れを惜しむほどの絆が生まれた。また、九份での写真撮影から始まった三重県の方との出会いからは「親切の連鎖」を学び、４日目の TSMC 台積創新館見学では、拙い英語での質問が「深い学び」につながる喜びを味わった。さらに、台湾蔦屋の社長さんによる講話は、私の価値観を大きく揺さぶった。「日本には『察する』文化があるが、海外はそうではない。会話において言語は最重要ではない」という言葉は私の対話欲に火をつけた。



その後の台北市内フィールドワークは、まさに一期一会の連続だった。現地の方と互いの言語を教え合い、笑顔の絶えない時間が流れた。また、初対面でありながら「可愛！（可愛い）」、「漂亮！（綺麗）」と互いに褒め合う瞬間は、謙遜しがちな日本においてあまり体感することないかけがえのない時間だった。

　かつての私は言葉を「物事を正確に伝えるための道具」と捉えていた。しかし今、言葉は「相手の懐に飛び込み、敬意を示すための勇気」なのだと思っている。完璧な文法よりも、一歩踏み出し、対話を試みること。その能動的な姿勢こそが世界と自分を繋ぐ最高のおもてなしとなる。勇気を出して心のシャッターを開けた先には、想像以上に温かく、色鮮やかな世界が広がっていた。この5日間で得た光を胸に、私はこれからも世界へと心開き続けていきたい。

令和７年度富士宮市未来を担う高校生人材育成事業　研修レポート

グローバル化の現在で

学年：２年　氏名：久保田 結月

インターネットや人から聞いた話だけでは感じることのできなかった、台湾の人の優しさに触れた４泊５日でした。

中でも、台南市に所在する国立曽文高級家事商業職業學校で行った学生との交流が強く印象に残っています。 お互い日本語、中国語は上手く話せず、英語も発音の違いで伝わるのが難しく、初めは不安を感じてしまいました。しかし、ジェスチャーやリアクションを取ることで徐々に緊張も和らいでいき、最後には別れを惜しむほどの仲を築くことができました。私は、異文化・異言語に触れる際に、相手にとってタブーになることを極端に恐れ、話すことや相手を知ることを躊躇っていました。ですが、今回の交流では、言語力が第一であるというよりも、あなたと話したい、仲良くなりたい、そういった気持ちを表すことが大切なのだと気づきました。この経験は、国際交流への前向きな価値観を得、今後の意欲的な行動をする意志を持つ大切な機会となりました。

また、私は日本と台湾の'おもてなし'の違いを見つけました。おもてなしと聞いたら、日本特有の文化であるような気がするかもしれません。見返りを求めずに、相手を重んじ、純粋な配慮を向ける。そんな落ち着いたホスピタリティであるというイメージが、日本のおもてなしです。対して台湾のおもてなしとは、私は、相手を重んじた上でフレンドリーに接しているものだと感じました。例えば、空港で中国語を勉強していた私たちに気づいて優しく話しかけてくれた台南市在住のおばあさんや、お土産物店で日本語や素敵な笑顔で話しかけてくれ、試食もたくさんさせてくれた販売員の方のように、私は、台湾では直接的な人の温かみを多く感じる事ができたと考えます。どちらがいいというのではなく、'おもてなし'という言葉の中でも、違ったニュアンスを持ち、それぞれの文化や人柄に表れていることに気づけました。同じアジア圏であり、歴史的関係も根強い国同士でも、価値観や考え方が違うということを認識でき、世界の多様さに更に興味を持つきっかけとなりました。

私は現在、グローバル化が進んだ世界に順応し、世界平和に貢献できる外交官を目指しています。外交官には言語力だけでなく、多方面での考え方、価値観を身につける必要があります。今回の研修での交流、そして得ることのできた価値観を、将来の国際交流に活かしていきたいです。

2026
曾文家商
歡迎
富士宮市未来を担う高校生人材育成事業

令和７年度富士宮市未来を担う高校生人材育成事業　研修レポート

半導体の進化

学年：２年　氏名：後藤　さくら

本研修では台湾のさまざまな場所を訪れ、多くの学びを得ました。その中でも TSMC では、現代社会を支える半導体技術の進化とその製造を担う TSMC の重要性について知ることが出来ました。

１．チップの進化

私たちの生活を大きく変えているのは、とても小さな「チップ（半導体）」の進化です。例えば昔の冷蔵庫は、氷を入れて冷やすだけのものでしたが、今ではチップによってスマートフォンで中身を確認できたり、食材の状態を自動管理したりできます。またカメラも、チップが光の情報を細かく処理することで、暗い場所でも細部まで鮮明に写せるようになるなど、劇的な進化を遂げています。

2. スマートフォンの反応速度

特に印象的だったのは、スマートフォンの操作性の変化です。2000 年頃のタッチパネルはペンで強く押さないと反応しませんでしたが、2008 年頃には指で軽く触れるだけで動く「マルチタッチ」が可能になりました。画面をスムーズにスクロールしたりできるようになり、操作がとても簡単になりました。このような変化は、チップの処理速度が大きく向上したことによるものだと分かり、とても驚きました。

3. TSMC の役割と世界とのつながり

こうした進化を支えているのが、TSMC です。TSMC は自社製品を売るのではなく、他社が設計した半導体を製造する「製造特化」の企業で、「世界の半導体業界から信頼される技術を提供する」という使命（Mission）に感銘を受けました。また、台湾の半導体生産が滞る「台湾有事」が起きれば、自動車や家電など幅広い生産に影響を及ぼす可能性があるので半導体はただの部品ではなく、世界経済に深く関わっていることを感じました。

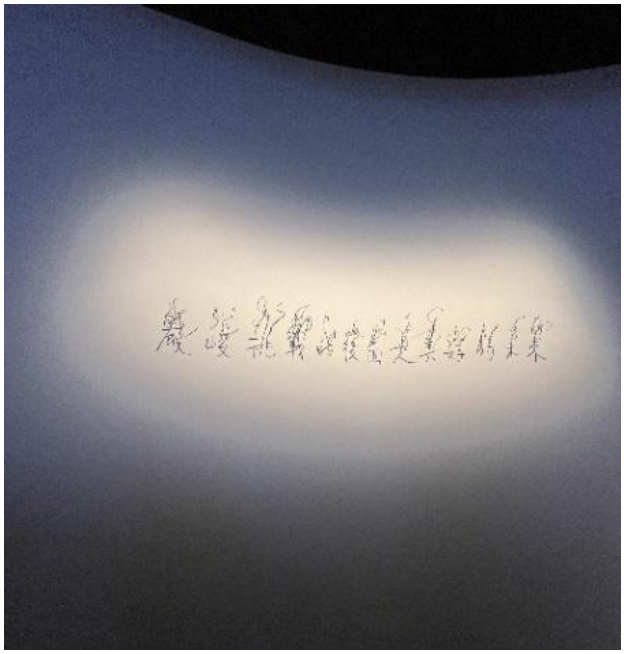
4. 最後に

創業者であるモリス・チャン氏のメッセージを目にしました。

「厳峻挑戦的後面是美好的未来（厳しい挑戦の先には、素晴らしい未来がある）」

この言葉通り、半導体の歴史は絶え間ない厳しい挑戦の連続であり、その積み重ねが今の便利な社会を実現しています。今回の研修を通して、普段何気なく手にしているデバイスの裏側には、目に見えないチップの絶え間ない進化があることを学びました。これまでは新しい製品だから便利だと安易に考えていましたが、その背景には TSMC のような企業の高度な製造技術や、信頼を重んじる企業姿勢があることに気づかされました。テクノロ

ジーをただ享受するだけでなく、その裏にある技術者の努力や国際的なつながりに目を向けることの大切さを学びました。これからは、進化し続ける半導体技術がどのように未来を切り拓いていくのか、関心を持ち続けていきたいと思います。



令和７年度富士宮市未来を担う高校生人材育成事業　研修レポート

つながりから考える文化と社会

学年：２年　氏名：小林　美晴

私は、ニュースや SNS で見える外国の姿と実際の生活や価値観との間に相違があるのではないかという問題意識を持ち、本研修に参加した。実際に台湾の高校生と交流する中で、その印象は良い意味で変化した。

交流の中で、台湾の生徒は積極的に話しかけてくれ、好きな音楽の話題から K-pop という共通点が見つかり、その流れで一緒に TikTok を撮影した。普段あまり経験のないことだったため新鮮であり、音楽や SNS といった身近なものが国を越えて共有されていることに驚いた。同時に、言葉が完全に通じなくても同じコンテンツを通して自然とつながることができ、どこかでつながっているという感覚を強く実感し、エンターテインメントの重要性を感じた。

また、街中では日本のアニメや映画の広告が多く見られ、九份や十分、夜市などの観光地ではキャラクターが親しまれていた。店員さんが日本語を話したり、学生交流の際、日本から持参したキャラクターグッズが喜ばれたことから、日本と台湾の文化的なつながりの深さを実感した。こうした体験を通して、日本の文化が台湾の人々の日常に自然に溶け込み、国を越えて共有されていることに驚いた。

さらに、安平古堡を訪れた際には、日本語・英語・中国語・韓国語のパンフレットが用意されており、多様な言語に対応することで多くの観光客を受け入れていることが分かった。また、AR を用いて歴史や建物を紹介する取り組みもあり、体験を通して歴史を学べる工夫がされている点が非常に印象的であった。この経験から、観光は伝え方や体験の設計によって価値が大きく変わると感じた。富士宮でも過去の街並みを再現するような取り組みがあれば、地域の魅力をより伝えられるのではないかと考えた。

さらに、TSUTAYA 台湾の社長のお話から、文化やコンテンツが広がる背景には工夫や仕組みがあることを学んだ。本を読む人が減少している現状に対して、読書を空間や体験として再構成する取り組みが印象に残った。加えて、台湾は市場規模が小さいという課題や、優秀なクリエイターがいても国内だけでは活躍の場が限られてしまうという現実がある中で、それらを単なる課題として終わらせるのではなく、海外展開を通じて乗り越え、新たな機会へとつなげている点が印象的であった。国外に発信することで、クリエイターが才能によって生きてい

ける環境を生み出しているという考え方に触れ、課題は工夫次第で価値へと変えられるのだと感じた。
私はこれまで、絵を描くことやデザインに興味を持ちながらも、将来性への不安から創作活動を仕事にすることは難しいと感じていた。しかし、今回の話を通して、価値は最初から決まっているものではなく、仕組みや環境によって生み出されるものものだと気づいた。
文化や創造的な活動も、それを支える仕組みがあれば、より多くの人に届き、社会の中で価値として認められる可能性があると感じた。
また、今回の研修を通して、文化は違いだけでなく共通する部分も持ち、それが人と人との繋がりを生み出していることを実感した。
さらに、新たな仲間と出会えたことがとても嬉しかった。同じように海外や将来に関心を持ち、それぞれが目標や夢を持っている仲間と過ごす中で、多くの刺激を受け、自分自身の視野も広がった。このような出会いは、これから自分が目標に向かっていく上で大きな支えになると感じた。
将来は、人と人、そして文化を越えたつながりを大切にし、一時的なものにとどまらず広がっていくような仕組みづくりにも関わり、異なる文化をつなぐ役割を担いたい。

令和７年度富士宮市未来を担う高校生人材育成事業　研修レポート

コミュニケーションの大切さについて

学年：２年　氏名：坂田　大和

今回の研修で様々な人や食、産業、歴史に触れることができた。その中で特に私が痛感したことはベースにある言語によって同じ英語でも全く違うものに聞こえてしまうというカルチャーショックとコミュニケーションの大切さである。

まず、前出のカルチャーショックを感じた場面は現地の学生交流であった。私は修学旅行などの学校行事で海外に行くことができず、外国人と交流する機会にも恵まれなかったため他国の方と英語で会話をする機会はめったになかった。なのでこの貴重な機会を活かすために英語でコミュニケーションをたくさんとりたかったのだが、驚いたことにパートナーが言ってることが全く分からなかった。さらにこちらが英語で話しかけても伝わらないのか、ピンときていないようだった。注意深く聞いてみると、確かにパートナーの話している言葉は英語だったのだがイントネーションに癖があるように感じた。どおりで聞きなれないわけだがそれはパートナーも同じだったと思う。私はネイティブの発音なんてできないので和製英語のようになってしまったのだが、和製英語があるなら中国語っぽい発音の中製英語もあるのかもしれない。お互いに癖のある英語を話すので聞き取ることが困難だったのだと思った。そして日本で勉強した通りの英語が通用しないのには英会話能力以外の原因があることが分かった。結局、パートナーとのコミュニケーションは会話ではほとんど成り立たず、Google 翻訳を用いて画面上の文字を見せ合うというものになってしまった。

しかし、お互い英語は伝わらないはずなのに、ポーズを作るゲームをした時には何の問題もなく意思疎通が図れた。それは身振りや手振りでお互いに何かを伝えようとする姿勢が見えたからだと思う。伝えようとする姿勢を見せることができれば、言語の壁を越えての意思疎通が可能になるということを改めて感じた。

次に、TSUTAYA 訪問での社長の講演を聞いて、ビジネスにおける成功の鍵は顧客を知ることでその顧客情報は様々な人との会話の中で得ることができ、さらにそれを多くの仲間に伝えることで大きなプロジェクトになっていくことを知った。そこに言語能力は必須ではなく大切なことは好奇心を持つこと、思ったことは何でも言うこと、察してもらおうとしないこと、失敗を恐れないことなど、一貫してコミュニケーションに関することをおっしゃっていた。言語以上に魂と魂のキャッチボールこそが大切なんだな、と感じた。

この研修での学校交流で学んだ、伝えようとする姿勢と、社長のお話にはコミュニケーションの重要性という点で共通している。つまりいかなる状況でも手段は問わず、伝えようという意識と伝えたいと思う気持ちが大切である。私は今回の学びを今後の学校生活や仕事に活かし、周囲の人とのコミュニケーションを大切にしていきたい。

令和７年度富士宮市未来を担う高校生人材育成事業　研修レポート

台湾研修から学んだ国際交流と観光

学年：１年　氏名：末次　茜

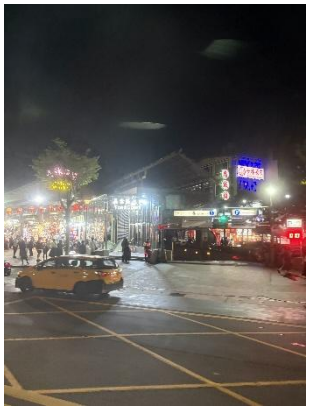
2026 年 3 月 22 日から 26 日にかけて実施された富士宮市未来を担う高校生人材育成事業に参加した。富士宮市をより良くしていく取り組みや、観光地としての魅力をさらに高める方法を学びたいと考えたため参加を希望した。

この事業は、グローバル化が進展する社会において、国際社会における客観的視点を養い、国際理解を深めることにより、未来を担う人材を育成することを目的としている。研修では、富士宮市の友好交流関係都市である台湾の台南市や首都台北市を訪れ、現地学校交流やフィールドワーク、観光地や歴史的名所の見学などを行った。

現地学校交流では、富士宮市の魅力や特産品などについて現地の学生に発表したほか、ダンス披露やゲームなどを行い交流を深めた。言語だけでなく、文化も異なるため最初はどのように交流すれば良いのか悩んだ。しかし実際に交流をしているうちに、言葉が通じなくても意思を伝えることができることを感じた。相手に伝えたいことを身体で表現したり、表情で伝えることがコミュニケーションをとるうえで重要であると実感した。

九份や十分、士林夜市など台湾の有名な観光地を訪れてみて、富士宮市が観光地としてより人気を増やすために参考となる点はないかという視点で見学した。九份や十分はランタンで街が飾られており、昼夜問わず街並みを楽しむことができる工夫がされていた。また、土地の特徴を活かした観光地づくりが行われており、日本語や英語などの多言語表記も多く見られた。士林夜市では、食べ物や雑貨が売られているエリアと遊ぶエリアが分けられており、初めて訪れた人でも迷いにくく、多くの人が楽しむことができるよう工夫されていると感じた。これらの工夫は、富士宮市が観光地としてさらに魅力を高めていくための取り組みを考えるうえで参考になると感じた。

今回の研修を通して、言語や文化が異なる人々と交流するのは難しいと決めつけてはいけないということの大切さを学ぶことができた。現地学校交流では、言葉が通じない場面もあったが、身振りや表情などを用いることで互いに意思を伝え合うことができ、コミュニケーションの方法は言語だけではないことを実感した。また、九份や十分、士林夜市などの観光地を訪れたことで、多くの観光客が訪れるための工夫や地域の特徴を活かした観光地づくりの重要性を学ぶことができた。今回の研修で得た学びを大切にし、今後は富士宮市の魅力や観光業の発展について考える際に活かしていきたい。



2026
曾文家商
歡迎
富士宮市未来を担う高校生人材育成事業

令和７年度富士宮市未来を担う高校生人材育成事業　研修レポート

５日間の台湾での研修を終えて

学年：１年 氏名：清 未玲亜

今回の研修は、５日間という短い期間とは思えないほど、多くの学びや発見にあふれた充実した研修で、とても貴重な経験をすることができました。

まず、台南市政府への表敬訪問を通して、台湾と日本のつながりを強く実感することができました。紹介していただいた国際交流の写真の半数近くが日本との交流の様子が写っており、日本との結びつきの深さを感じました。また、台湾と韓国の方々が日本語を通して交流することもあると聞き、日本語が国を越えたコミュニケーションの手段となっていることにも驚きました。地震が発生した際はお互いに手紙を送り合うなどして励まし合ってきたことを知り、思いやりや人と人とのつながりによって交流が築かれていることを学び、今後もこの温かい関係を保ち続けることが大切だと感じました。

現地の生徒との学校交流では、想像していた以上に温かく迎えていただき、緊張していた気持ちが和らぎました。事前に覚えたばかりの中国語や簡単な英語を実際に使い、相手と意思疎通できた時はとてもうれしく、言語を通して距離が縮まるということや言葉を学ぶ楽しさを実感できました。TSMC のミュージアムでは、半導体が生活に深く関わっているということを学ぶことができました。集積回路はスマートフォンや時計、VR 機器など様々な製品に使われており、１つの機器に多くの種類のチップが組み込まれていることを知りました。半導体は普段あまり目にすることがないけれど、タッチ操作の反応の正確さが高まったり、写真の解像度、明るさや彩度がより良くなったり、医療や宇宙など幅広い分野でも活用されていて、私たちの生活をより便利で快適なものにする重要な技術であることが分かりました。TSUTAYA の社長さんの講演では、海外で働くことの魅力や異なる文化の中で働くことによって視野を広げ、多様な価値観に触れることの大切さについて学ぶことができました。日本は相手の気持ちを察したり、その場の空気を読んだりすることが大切にされる場面が多いのに対し、海外では自分の考え方をはっきり伝え、積極的にコミュニケーションをとることが重要視されるという違いを知りました。グローバル化が進む社会で活躍するために、私も様々な考え方や価値観に触れ、広い視野を持てるようになりたいと思いました。十分での天燈上げや九份の街並みを訪れたことで、台湾ならではの文化を身近に感じることができました。また、夜市のにぎわいや車道が右側通行であること、バイクの多さなど、実際に現地を訪れることで初めてわかる違いや発見が多くありました。文化、歴史、産業など様々な面から台湾を知ることができ、現地での体験

を通して視野が広がったと感じています。また、今回の研修では、他校の研修生とも交流でき、楽しく 5 日間を過ごすことができました。自分の成長を実感できる経験となりました。このような機会を与えてくださった職員の方々をはじめ、送り出してくれた両親にも感謝しています。
この研修で得た多くの学びをこれからの自分に活かしていきたいです。

令和７年度富士宮市未来を担う高校生人材育成事業　研修レポート

台湾研修を通して学んだことと今後の目標

学年：２年　氏名：轟木　周平

今回の台湾研修では、歴史や文化、最先端技術、そして台湾の人たちとの交流を通して、多くの学びを得ることができました。特に印象に残ったのは、日本と台湾の深いつながりです。日本統治時代に建てられた林百貨店が今も大切に使われている様子を見て、歴史の重みを感じました。また、八田與一さんが灌漑システムを整備したことで農業が難しかった台湾の土地が豊かになり、今も英雄として尊敬されていると知りました。同じ日本人としてとても嬉しく感じました。
街ではくら寿司やセブンイレブンなど日本でもなじみのある店を多く見かける一方で、原付バイクの多さには驚きました。一台のバイクが倒れた時に周りの人が自然と助けている様子を見て、台湾の人々の温かさや思いやりを感じました。日本人も困っている人がいると自然と助け合うように台湾でも日本でも人を思いやる気持ちは同じだと感じました。食文化では四百年以上の歴史を持つ担仔麺がとても印象に残りました。食べてみるとシンプルながらも深みのある味わいで、台湾ならではの料理の魅力を感じました。
九份の商店街で食べた臭豆腐は独特の強い匂いに驚きましたが、口にしてみると柔らかく、少し辛いソースがとても美味しく、印象が一気に変わりました。見た目や匂いで判断せず実際に体験することの大切さを学びました。ランタン上げでは、四人で「受験合格」と願いを筆で書き空へ放ちました。一瞬で高く舞い上がっていく様子に思わず歓声が上がるほど感動し、日本ではなかなか体験できない文化として心に残りました。
一方で、川や電柱に落ちるランタンもあり、その後どうなるのか気になりました。ガイドさんによると、地元の方やボランティアによって回収や清掃活動が行われていることを知り自然に残らないようにする人々の努力を感じました。しかしすべてを回収することは難しく、一部は自然の中に残ってしまう場合もあると分かりました。このことから日本では環境や安全への配慮が重視されるため、このような文化が広まりにくい背景があるのではないかと感じました。一方で、台湾では願いを込めて空に放つ大切な伝統文化として受け継がれており、その意味や価値を理解しながら、環境との関わりについても考えることの大切さを学びました。
TSMC の見学では、半導体がスマホだけでなく家電にまで使われ、私たちの生活を支えていることを知りました。将来は鏡を見るだけで健康状態が分かる技術が登場する可能性があるという話もあり、進化の速さに驚きました。現地の学生とは中国語やインスタグラムで交流し言葉の壁があってもつながれることがとても嬉しかったです。

今回の研修を通して、人とのつながりの大切さに改めて気づきました。共に研修に参加した周りの学生の意識の高さにも刺激を受け、自分ももっと頑張らないといけないと感じました。これからは目の前の勉強に真剣に向き合い、英語をはじめとする語学力を高めて、将来は海外の人とも積極的に関わっていける人間になりたいと思います。

令和７年度富士宮市未来を担う高校生人材育成事業　研修レポート

完璧じゃなくて良い

学年：１年　氏名：中矢　小遥

私はこの度の台北、台南への研修を通して台湾という国を肌で感じ、様々なことを学びました。その中でも特に印象に残っていることを二つ記載します。

まず一つ目は今回の事業の目玉でもある学校交流です。学校交流では現地の高校生二人とペアとなり、部活動のショーを見たり英語で交流をしたりしました。

はじめて現地の生徒と顔を合わせた時、私は頭が真っ白になってしまい、伝えたいことを言語化することができませんでした。そして同時に、このまま交流することができなかったらどうしようという強い不安を抱きました。しかし、ペアの二人や現地の先生が親身に耳を傾けてくださり、一緒に日本のアニメや趣味の話、学校生活について話していくうちに自然と仲良くなることができました。

私がこの学校交流で学んだことは完璧な英語を話すよりも相手に伝えたいという「姿勢」や「笑顔」を大切にするという事です。私は英語が得意ではありません。しかし、簡単な単語を並べたり、表情を豊かにしたり、ジェスチャーをしてみたりと自分なりに工夫をして交流を進めたことで、お互い自然と笑いあえるような関係になったと感じています。英語が得意でなくても伝え方の工夫をすることで、コミュニケーションをとることができる。この気づきは私にとって大きな自信となりました。

二つ目は TAIWAN TSUTAYA の社長様による「グローバル社会で求められる働き方」についての講演です。第一線で活躍されている方から直接お話を聞けるというのは私にとって、とても刺激的な機会となりました。

講演の中で私が特に心に残っていることは「失敗は次への経験に」という内容です。失敗をすることは悪いことでも恥ずかしいことでもない。その失敗した経験は今後の人生に活かせば良い。若いうちにたくさん失敗をして経験値を上げたほうが良い。といったような内容でした。失敗する事を恐れ消極的になりがちな私にとってこの言葉はとても勇気をくれました。

今回の事業を支えてくださった富士宮市役所の方々、旅行会社の方々、現地ガイドさん、カメラマンさん、私たち高校生にこのような貴重な機会をいただきありがとうございました。

今回の研修は確実に私の世界を広げるものとなりました。

今後は、研修で得た気づきを忘れず、英語学習に励み、自分らしさを大切に毎日を過ごしていきたいと思います。また、台湾で得た貴重な経験は今後の人生において大きな力になると確信しています。

令和７年度富士宮市未来を担う高校生人材育成事業　研修レポート

縁と知見

学年：２年　氏名:中山　羚梛

私の中で、海外とは未知の世界であり、少し怖いという印象があったが、台湾での数日間でその印象は大きく変わった。実際に現地を訪れ、人と関わることで、物事の見え方は驚くほど変わる。異なる文化の中での交流を通して、言葉だけでは伝わらない思いや価値観が確かに存在し、それが人と人との距離を縮める大きな力になると実感した。

「百聞は一見にしかず」という言葉があるように、事前に知識として知っていた台湾と、実際に自分の目で見て体験した台湾とでは、その印象は全く異なった。特に印象に残っているのは、現地の生徒との交流である。最初は言葉が通じるか不安でうまく話せないのではないかと思っていた。しかし、勇気を出して積極的に関わってみると、言葉だけに頼らず、身振り手振りや表情を使って気持ちを伝え合うことができた。互いに理解しようとする姿勢があれば、言語の壁を越えてコミュニケーションが成立するのだと実感し、「伝えたい」という思いそのものが大切なのだと気づかされた。

また、観光だけでなく、企業見学や現地で働く方のお話を聞く中で、経済の仕組みや多様な働き方に加え、自分の意見を持ち、それを発信することの重要性を学ぶことができた。

台南市政府に訪問した際には、駐車場の屋根にソーラーパネルを設置するなどの地域の特性を活かした工夫を教えていただき、環境問題への現実的な取り組みに触れることができた。こうした経験から、知ることだけで満足するのではなく、実際に"見る"・"関わる"ことが、自分の視野を大きく広げる鍵であると感じた。

さらに、この研修を通して「縁」というものの大切さについても考えさせられた。初めて出会った人たちとの関わりが、単なる一時的な出会いではなく、自分の中でターニングポイントになるような出会いであったことを実感した。現在、学校や職場などで人と関わることに不安を感じる人が日本では増えているとも言われている。だが、人との関わりの中にこそ、自分の世界を広げるきっかけがあるのではないだろうか。私自身、将来、教師を目指す者として、この経験を自分の中だけに留めるのではなく、人と関わることの大切さや、その先にある自分たち自身の可能性を伝えていきたいと強く思った。

この研修で出会ったすべての人との縁に感謝するとともに、知ること、見ること、そして人と関わることをこれからも大切にしていきたい。

2026
曾文家商
歡迎
富士宮市未来を担う高校生人材育成事業

令和７年度富士宮市未来を担う高校生人材育成事業　研修レポート

台湾研修で広がった視野と将来への一歩

学年：１年　氏名：堀内　絆良

私は富士宮市未来を担う高校生人材育成事業に参加し、台湾で５日間の研修に行きました。これまでに二カ国で海外研修を経験してきましたが、今回はその経験を活かし、自分から積極的に意識して行動することを意識して参加しました。

今回の研修で特に印象に残っているのは、現地の高校生との交流です。英語での発表や簡単なダンスを通して交流し、私達は「恋するフォーチュンクッキー」を披露しました。最初は緊張してうまく話せませんでしたが、自分から話しかけたり、ジェスチャーを使ったりすることで、少しずつ仲良くなることができました。また、インスタグラムを交換し、その後もメッセージでやり取りを続けることができたことで、短い時間の交流であっても関係を築くことができたと感じました。この経験から、言葉だけでなく自分から関わろうとする姿勢が大切だと学びました。

また、台南や台北での観光や博物館の見学、企業の施設訪問を通して、日本とは異なる文化や価値観に触れることができました。歴史的な建物や資料を見学する中で、日本と台湾の関係についても学び、異文化を理解するためには、その背景にある歴史やつながりを知ることが大切だと感じました。更に、夜市では多くの人や屋台の様子から、日本とは違う雰囲気や文化を感じることができました。

現在はこの研修で得た学びを、国際バカロレアのカリキュラムの一つであるCAS(Creativity・Activity・Service)として発信しています。自分の体験や感じたことを周りの人に伝えたり、SNS を通して台湾の文化や現地での経験を紹介したりすることで、自分の理解を深めるとともに、他の人にも異文化に興味を持ってもらうきっかけを作ることができると感じています。

今回の経験を通して、将来は国際関係の仕事がしたいという気持ちがより強くなりました。実際に現地の人と関わることで、異なる文化の中で生活し働くことに魅力を感じました。更に、台湾の TSUTAYA の社長さんの講話を通して、海外で働くことは視野が広がるだけでなく、多様な価値観に触れることで人として成長できるという話が印象に残っています。言語はあくまでコミュニケーションの手段であり、大切なのは自分の考えを持ち、それを伝えようとする姿勢であるという言葉から、自分も国際的な環境で挑戦していきたいと強く思うようになりました。

この経験をこれからの学びに活かし、自分から積極的に行動し続けていきたいです。また、今回

の経験を一度きりで終わらせるのではなく、今後の学習や活動にもつなげ、更に自分自身の成長につなげていきたいと考えています。

令和７年度富士宮市未来を担う高校生人材育成事業　研修レポート

台湾で広がった私の視点

学年：１年　氏名:村松　里莉

今回の台湾研修では、「ローカルにときめく」と言うテーマを持ち、その土地にしかないものや、隠れている価値を見つけることを意識して参加しました。最初は、文化や食べ物など目に見えるものに注目していましたが、研修を通して、本当のローカルとは、その文化や歴史に隠れている人々の考え方や、価値観にあるのだと気づきました。

例えば、現地では食事をする際に、日本ではあまり見られない円卓を囲み、回転するテーブルで料理を分け合うスタイルを体験しました。食べたことのない料理に出会うことも印象的でしたが、それ以上にその食事スタイルには自然と会話が生まれ、台湾の人が家族や周囲の人と過ごす時間を大切にするという価値観が表れているのだと感じました。最初は「珍しい」 「おいしい」と感じていただけでしたが、その背景にある考え方に気づいたことで、これもローカルにときめく体験の１つだと思いました。

他にも印象に残ったことは、台南市政府での見学です。私は台南市がたくさんの国や地域と姉妹都市を築いている姿を見て、日本に統治されていたことについてはどのように考えているのだろうと疑問を持ち、質問をしてみました。すると「嫌なこともあったと思うが、今の台湾があるのは日本のおかげでもあり、嫌であれば現在のような交流は続けていない」という答えが返ってきました。この言葉から、過去の出来事だけで判断するのではなく、相手の良い面にも目を向けて評価する台湾の人々の広い心を感じました。日本では、過去の出来事に対して否定的に捉えることも多いと感じているため、このような前向きな考え方はとても印象的で、現地に行かなければわからなかった人々の考え方こそが、その土地ならではのローカルであると実感できました。

このような広い心の考え方は、他にも奇美博物館を創設した方や TSMC の創設者にも通ずるものがあると感じました。どちらも人のために動いたり、自分の志を大切にしながらも、相手のために貢献していく姿があり、とても印象的でした。最後にもう１つ印象に残ったことは TSUTAYA の社長さんにお話を伺う機会があり、海外で働く際の日本とは異なる価値観や文化についてお話しいただいたことです。社長さんは、日本とは異なる価値観や文化の違いに直面する中で大切だと気づいたことは、一方的に自分のやり方を押し付けることではなく、相手の考え方を理解し尊重し、 自分意見と合わせてコミュニケーションをすることだと話されていました。私自身も、海外だけでなく身近な人でもどのように向き合えば良いのだろうと思ったことがあるので、人間関係は国境を超えてもアプローチの仕方は変わらず、とにかくコミュニケーションをとっていくことが大切なのだと感じました。

今回の研修を通して、ローカルとは単にその土地にある建物や食べ物だけでなく、そこに暮らす人々の考え方や価値観であると学びました。台湾の人々は、過去の出来事にとらわれすぎず、相手の良い面を見て関係を築いていく温かい考え方を持っていました。一方で、日本には礼儀や秩序、発展の面の良さがあると改めて気づきました。これらの違いから、それぞれに異なる良さがあると理解しました。今後は台湾で感じたように、相手の良い面に目を向ける姿勢を大切にしながら、様々な人とコミュニケーションをとり、その人の価値観や文化を理解していきたいです。

令和７年度富士宮市未来を担う高校生人材育成事業　研修レポート

台湾研修で得た学び

学年：２年 氏名：山本 心葉

今回、「富士宮市未来を担う高校生人材育成事業」の台湾研修を通して、台湾と日本との関係の深さを知り、現地での体験から得た気付きを考察することで、今までになかった視点から異文化をとらえることができました。

本レポートでは、主に「台日間の交流事業」「研修中の講義で学んだこと」そして「台湾に住む外国人労働者の存在」という３つの観点を中心に報告します。

まず、「台日間の交流事業」については、研修の中で訪問した台南市政府で、職員さんから台日間の交流の証として贈られた品々の展示等をご紹介いただきました。事前研修により、台湾と日本にある多くの都市が友好関係にあることは理解していましたが、想像以上に強い両者の結びつきを感じました。学校交流での現地の学生が日本のアニメキャラクターや富士山の絵柄のプレゼントに喜ぶ様子から、文化的面での親和性が感じられたほか、交通面では、日本から輸出された新幹線が重要な移動手段となっており、日本の技術が台湾の発展に貢献できていることが分かりました。こうした繋がりがあるからこそ、私たちが現地で温かく迎えられたのだと感じ、今後もこうした両国の良好な関係が続いてほしいと思いました。

第二に、「研修中の講義で学んだこと」については、研修 3 日目に行った、TSUTAYA BOOKSTORE の社長による講義「海外キャリアを形成するためには」が記憶に残りました。講義の中で、海外で働くうえで重要な考え方として示された３つの要素のうち、特に「失敗は次への経験」という言葉が印象に残っています。失敗を引きずりやすく、ネガティブ思考になりがちな私は、自身の失敗を次の行動へ活かすことへの苦手意識がありました。そのため、素早く気持ちを切り替える方法を質問したところ、「失敗は自分が思うほど周囲は気にしていないことが多く、落ち込むよりもすぐに訂正し、解決策を考えるほうが良い」と教えていただきました。私にとっては、新鮮な価値観であり、この考え方は海外での仕事に限らず日常生活を送る上でも活かせるものだと感じました。今後の人生の中でも、今回の講義を思い出し、失敗に際しても少しでも早く立ち上がれる大人になりたいと思いました。

第三に、「台湾に住む外国人労働者の存在」については、休日の台北駅の様子から、外国人労働者の存在が台湾の人々の生活に馴染んでいることに気が付きました。台北駅内の人混みの中で床に座り休息したり、歓談したりする人々が集い、その多くが頭部を覆う服を身につけていました。イスラーム文化と台湾がイメージの上で結びついていなかった私は、現状とその背景に関心を持ち、帰国後に調べた結果、日本よりも少子高齢化が進む台湾は、労働力不足補填のために、本格的な外国人労働者受け入れ政策をとっていることが分かりました。これを裏付けるように、バスガイドさんからも、「外国人労働者の気軽なリフレッシュのために、街中には広い公園やテニスコートが多く整備されている」という説明があ

りました。日本では意識したことがなかった、社会全体で外国人労働者を支えるという空気を肌で感じることができました。実際に現地に赴かなければ気がつかなかった、国ごとの違いを経験できたことは私にとって大きな財産になったと思います。
最後に、これらの貴重な体験から様々な学びを得ることができたのは、富士宮市役所の皆様、東武トップツアーズ静岡支店の皆様の支えのもと、私たち 15 人の高校生がそれぞれの目標をもって真剣に取り組めたからだと思います。素晴らしい環境で学べたこと、そして何よりも、研修に参加させてくれた家族に対して感謝の気持ちを忘れず、将来、富士宮市で活躍し、地域と世界に貢献できる人材となれるよう、精進してまいります。

令和７年度富士宮市未来を担う高校生人材育成事業　研修レポート

台湾研修で得た学びと気づき

学年：１年氏名：渡邊　乃愛

私は富士宮市未来を担う高校生人材育成事業に参加し、台湾で５日間の研修を行いました。今回の研修では、現地の文化や産業について実際に見て学ぶことができました。また、自分から積極的に行動することを目標に取り組みました。
今回の台湾短期留学では、グローバル社会について多くのことを学ぶことができました。特に印象に残ったのは、TSUTAYA TAIWAN の社長による講演と、台湾の学校での交流です。
まず、TSUTAYA TAIWAN の社長による講演では、「グローバル社会で求められる働き方」についてお話を聞きました。講演の中で印象に残ったのは、海外で働くことで視野が大きく広がり、自分の価値観や考え方も成長していくという話です。また、海外では一人ひとりに任される責任が大きく、「すべての責任を自分で負う」という意識が大切だと知りました。さらに、言語は大事ではあるけれど、それ以上に好奇心を持つことが重要だという言葉が心に残りました。若いときの失敗は決して無駄ではなく、将来につながる経験になるという話もあり、失敗を恐れずに挑戦することの大切さを学びました。
次に、3 日目には台湾の学校を訪問し、現地の高校生と交流を行いました。最初に学校の案内をしてもらい、その後に交流ゲームをしました。お互いの国や地域について紹介し合い、とても楽しい時間を過ごすことができました。私たちは日本の紹介としてホームタウンの説明を行い、さらに AKB48 の「恋するフォーチュンクッキー」のダンスも披露しました。台湾の生徒たちもとても盛り上がってくれて、言葉が完全に通じなくても、ダンスや笑顔で交流できることを実感しました。
この研修を通して、異文化を理解することの大切さと、自分から行動することの重要性を学びました。たとえ国や言語が違ってもジェスチャーや身振り手振りを使えばコミュニケーションを取ることができ、深い関係を築けることが分かりました。今後はこの経験を活かし、さまざまなことに積極的に挑戦していきたいです。